

世界

横田喜三郎 編

らいふらりい
しりいず

有斐閣

世 界

横田喜三郎編

らいぶらりい
しりいず

6



有 斐 閣

執筆 者 紹 介

(五十音順)

かな	ざわ	よし	お		
金	沢	良	雄	北	海 道 大 学 教 授
たか	の	ゆづ	いち		
高	野	雄	一	東	京 大 学 助 教 授
てら	ざわ		はじめ		
寺	沢		一	東	京 大 学 助 教 授
よこ	た	き	うぶ	ろう	
横	田	喜	三	郎	東 京 大 学 教 授

柳

次

郎

世 界 らいぶらりい・しりいず

昭和 29 年 11 月 20 日 初版第 1 刷印刷

昭和 29 年 11 月 30 日 初版第 1 刷発行

定価230円

編 者 よこ た き うぶ ろう
横 田 喜 三 郎

東京都千代田区神田神保町 2ノ17

発行者 江 草 四 郎

東京都千代田区神田三崎町 2ノ22

印刷者 堀 内 文 治 郎

東京都千代田区神田神保町 2ノ17

発行所 株式会社 有 斐 閣

電話 九段 (33) 0323・0344

振替口座 東京 370番

印刷・装内印刷所 製本・株式会社高橋堂

Printed in Japan

NDC 319

はしがき

われわれは、世界に住んでいる。世界の人々と交わり、世界の国々から影響を受ける。決してわれわれだけで住んでいるのではなく、われわれだけで住んでゆけるものでもない。それだけに、われわれは、世界のことをよく知らなくてはならない。たんに世界そのものを知るためだけでなく、世界から影響を受けるわれわれ自身を知るためにも、それは必要なことである。

世界を知るといっても、いろいろな方面がある、政治があり、経済があり、文化もあり、思想もある。そのほかに、まだいろいろあろう。これらのすべてについて、いちいち説明することは、一さつの書物では、とうてい不可能である。そこで、主として政治と経済の方面にかぎることにした。これらのことは、われわれの現実の生活に直接に大きな影響のあることで、すくなくともいちおうの知識は、だれももつていなくてはならないであらう。

世界の政治と経済は、世界が多くの国からできているから、ある程度まで、これらの国の政治と経済でもある。その意味で、世界の主要な国々の政治と経済について、ひととおり説明を加える必要がある。しかし、そのほかに、世界そのものとしての、世界を全体として見ての、政治と経済もある。本来の意味では、これこそ世界の政治と経済でなければならない。これらについては、より

詳しい説明を加える必要があろう。

こうして、「世界の政治」（第一話）と「世界の経済」（第二話）では、はじめに主要な国々について述べ、つぎに全体としての世界について説明した。とくに注目すべきことは、最近になつて、世界に政治的な組織が生じたことである。第一世界大戦後の国際連盟、第二世界大戦後の国際連合がそうである。「世界の組織」（第三話）で、これらについて、比較的に詳しく説明することにした。さらに、「世界の問題」（第四話）では、現在の世界で、もつとも重要な、もつとも意義のある諸問題をとり上げた。

世界を知ろうというのも、結局には、われわれに深い関係があるからである。この関係を十分に知らない、ひとりよがりの行動をとり、世界からつまはじきされる。そのために、おもわない失敗を招き、大きな損害を受けることがある。満州事変から後の日本は、そうした苦い経験をやというほど味つた。このようなことを、ふたたびくりかえしてはならない。「世界と日本」（第五話）は、それについて、述べたもので、とくに注意してほしいとおもう。

この書物を執筆した人々は、すべて東京大学の法学部を卒業し、現にその教職にあるものばかりである。へいぜいから、学問的にも、その他でも、非常に親しくしている。それだけに、この書物

の企画に当つても、執筆に当つても、よく意志が疎通し、十分に連絡と協力ができた。できあがつた原稿については、私が編集者になつた関係で、他の人のものにも目を通し、かなり筆を加えた。あるいは、加えすぎたかも知れない。それというのも、内容ばかりでなく、文体や用語までも、できるだけ統一的なものにしたいとおもつたからにほかならない。この点は、他の執筆者に、ここであらためて了解をえておきたいとおもう。ただ、こうした編集によつて、執筆者は数人であつたけれども、あたかも一人の手によつて執筆されたように、本書は全体として完全な調和と統一をもつているとおもう。それこそ、編集者として、もつとも努力した点である。

一九五四年一〇月

横 田 喜 三 郎

本書の執筆者と分担

世界の政治 寺沢一、横田喜三郎、高野雄一

世界の経済 金沢良雄

世界の組織 横田喜三郎

世界の問題 横田喜三郎、金沢良雄、高野雄一、寺沢一

世界と日本 横田喜三郎

目次

はしがき

第一話 世界の政治

その一 各国の政治

1 アメリカの政治

世界におけるアメリカ(一)——連邦制(四)——大統領(四)——議會(五)——裁判所(五)——政党(六)

2 イギリスの政治

世界におけるイギリス(七)——連合制(八)——国王(九)——内閣(一〇)——議會(一〇)——政党(一一)

3 フランスの政治

世界におけるフランス(三)——大統領(四)——議會(四)——内閣(五)——政党(六)

4 ドイツの政治

世界におけるドイツ(一六)——西ドイツの政治組織(一八)——西ドイツの主権回復(一九)——東ドイツの政治組織(二〇)——東ドイツの主権回復(二〇)

5	ソヴィエトの政治.....	三
	世界におけるソヴィエト(二)——連邦制(二四)——連邦最高会議(二四)——連邦大臣會議(二五)——政党(二六)	
6	中国の政治.....	二六
	世界における中国(二六)——人民民主專制(二六)——主席(二六)——全國人民代表大會(二九)——國務院(二九)	
その二	世界の政治.....	三〇
1	世界の政治の理論.....	三〇
a	國際政治の意義.....	三〇
	政治の意義(三一)——國際政治の意義(三一)	
b	國際政治の目的.....	三二
c	國際政治の本質.....	三三
	政治の本質(三三)——國際政治の本質(三六)——國際政治における權力(三六)——國際政治における道義(三八)	
2	世界政治の實際.....	四〇
a	國際政治のスタート.....	四一
	ハーグ平和會議(四一)——國際裁判運動(四三)——第一世界大戰(四三)	

b	国際政治の前進……………	四
	国際連盟の成立(四)——海軍軍備縮少(四六)——ロカルノ条約(四七)——不戦条約(四九)	
c	国際政治の逆転……………	五〇
	満州事変(五〇)——ナチ・ドイツ(五二)——エチオピア戦争(五三)——枢軸(五五)——第二世界大戦(五六)	
	第二話 世界の経済……………	五九
	その一 各国の経済……………	五九
1	アメリカの経済……………	五九
	特色(五九)——鉱業(六〇)——工業(六〇)——農業(六一)	
2	イギリスの経済……………	六一
	特色(六一)——鉱業(六二)——工業(六二)——農業(六三)	
3	フランスの経済……………	六三
	特色(六三)——鉱業(六四)——工業(六四)——農業(六四)	
4	ドイツの経済……………	六四
	特色(六五)	
a	西ドイツ(ドイツ連邦共和国)の経済……………	六五

特色(六五)——鉱業(六六)——工業(六六)——農業(六六)	
b 東ドイツ(ドイツ民主共和国)の経済	七
5 ソヴィエトの経済	六
特色(六八)——鉱業(六九)——工業(六九)——農業(六九)	
6 中国の経済	七
特色(七〇)——鉱業(七一)——工業(七一)——農業(七一)	
その二 世界の経済	三
1 世界経済の意義	三
経済の発展段階(七三)——世界経済とは何か(七三)——世界経済の秩序化(七四)	
2 世界の人口	五
人口の分布と密度(七五)——移民の問題(七五)——人口の増加(七六)——人口問題と世界経済(七六)	
3 世界の資源	七
資源の意義(七七)——資源の増減(七七)——資源の偏在(八三)	
4 世界の交通・通信	八
交通・通信機関の発達と世界の経済(八三)——世界の交通機関(八三)	

5	世界の貿易……………	八四
6	貿易政策……………	九二
	自由貿易政策(九三)——保護貿易政策(九三)——保護関税(九三)——関税自主権(九三)—— 管理貿易政策(九四)——為替管理政策(九四)——今日の貿易政策(九五)	
7	世界経済の秩序化……………	九六
	a 二国間の国際経済規則……………	九七
	通商条約(九七)——通商協定(九八)	
	b 多数国間の国際経済規制——国際経済協力……………	九九
	国際商品協定(一〇一)——シューマン・プラン(一〇二)——国際通貨基金(一〇四)——国際復興 開発銀行(一〇四)——関税同盟・関税協定(一〇六)——ガット(一〇六)——国際貿易機関(一〇七)	
	第三話 世界の組織……………	一〇九
	その一 いままでの世界……………	一〇九
1	近世の世界……………	一〇九
2	一九世紀の世界……………	一一一
	その二 国際連盟……………	一一二
1	国際連盟の成立……………	一二三

2	国際連盟の目的	二三
3	連盟国	二四
4	国際連盟の機関	二五
	総会(二五)——理事会(二五)——事務局(二六)——国際労働機関(二六)——常設国際司法裁判所(二六)	
5	国際連盟の任務	二七
	軍備縮少(二七)——紛争の平和的解決(二七)——戦争の防止(二七)——委任統治(二八)	
	——少数民族の保護(二九)——経済的や社会的な問題に関する国際協力(二九)	
6	国際連盟の消滅	二九
その三	国際連合	三〇
1	国際連合の成立	三一
2	国際連合の目的と原則	三三
3	連合国	三三
4	国際連合の機関	三四
a	総会	三五
	地位(三五)——構成(三五)——任務(三五)——決議の方法(三七)	
b	安全保障理事会	三六

地位(二三)——構成(二九)——任務(二九)——決議の方法(三〇)	二三
c 経済社会理事会	二三
地位(二三)——構成(二三)——任務(二三)——決議の方法(二三)	二三
d 信託統治理事会	二三
地位(二三)——構成(二三)——任務(二三)——決議の方法(三五)	二三
e 国際司法裁判所	二三
f 国際連合事務局	二三
5 国際連合の任務	二三
a 平和と安全の維持	二三
紛争の解決(二三)——戦争の防止(三七)——地域的協定(三八)	二三
b 経済的、社会的、文化的、人道的な問題のための国際協力	二三
c 信託統治	二三
非自治領土の統治(四〇)——信託統治(四〇)	二三
6 専門機関	二四
専門機関の意味(二四)——国際労働機関(二四)——国際連合食糧農業機関(二四)—— 国際連合教育科学文化機関(二四)——世界保健機関(二四)	二四
その四 世界国家	二四

第四話 世界の問題

世界国家への要望(一四四)——世界国家の意義(一四四)——世界国家の建設(一四七)

その一 二つの世界

1 二つの世界の意義

二つの世界の意義(一五二)——二つの世界の根本原因(一五二)

2 二つの世界の成立

鉄のカーテン(一五三)——トルーマン声明(一五四)——マーシャル計画(一五五)——コミンフォルム(一五六)——西ヨーロッパ連合(一五六)——北大西洋条約(一五七)——共産主義諸国の団結(一五八)——朝鮮の戦争(一五九)——緩和の傾向(一六〇)

3 一つの世界への要望

一つの世界への要望(一六一)——一つの世界への道(一六二)

その二 民族主義

1 民族主義の意義

民族主義の定義はむずかしい(一六四)——いちおうの定義(一六五)——民族主義の拡大(一六六)

2 現代の民族主義

民族自決主義の展開(一六七)——世界の統一と諸民族の独立(一六八)

3	アジアの民族主義……………	一六九
	アジア社会の変化(一六九)——アジア民族主義の特色(一七〇)	
その三	原子力の管理……………	一七一
1	原子力の発見……………	一七二
	広島原子爆弾(一七二)——アメリカとソヴェートの原子爆弾競争(一七三)	
2	原子力の管理……………	一七三
	原子兵器の管理(一七三)——原子力の平和的利用(一七三)	
3	国際連合と原子力の管理……………	一七三
	原子力委員会の設置(一七三)——委員会の構成と任務(一七三)——委員会におけるアメリカとソヴェートの対立(一七四)——原子力委員会の廃止と軍縮委員会の設置(一七五)	
4	原子力の管理に関する対立の点……………	一七四
	対立する二点の主張(一七五)——対立を打開する道はないか(一七五)	
その四	人権の保障……………	一七五
1	人権の保障の意義……………	一七五
	人権の意義(一七五)——人権思想の成立(一七六)——生存権思想の登場(一七六)	
2	人権の国際的保障……………	一八二

第二世界大戦前における人権の保護(一八二)——国際連合と人権の保護(一八三)

その五 後進国の開発

後進国開発の問題(一八四)——後進国開発への国際的協力(一八五)——各国の未開発地域援助計画(一八七)

第五話

世界と日本

その一 いままでの日本

- 1 強い国家主義……………一八九
- 国家主義の意義(一八九)——いままでの日本は強い国家主義の国(一九〇)
- 2 極端な軍国主義……………一九三
- 軍国主義の意義(一九三)——軍と戦争の賛美(一九三)——多くの軍備(一九四)——兵力による利益の増進(一九五)
- 3 非平和的な非協力的な態度……………一九六
- 国際裁判(一九七)——国際労働機関(一九八)
- 4 あいつづく侵略戦争……………二〇一
- 満州事変(二〇三)——中日事変(二〇四)——太平洋戦争(二〇五)
- 5 平和への要望と努力……………二〇六